



(<http://www.tv-asahi.co.jp/m-show/>)

毎週月～金 あさ8時放送

> (<http://www.tv-asahi.co.jp/m-show/#bccontents>)

> (<http://www.tv-asahi.co.jp/m-show/#dailysegments>)

> (<http://www.tv-asahi.co.jp/m-show/#mbcast>)

水曜日



伝統守り、次の世代へ引き継ぐべく奮闘する輝く女性に密着。宇賀なつみアナが体当たりレポートで紹介、応援します。

放送日 2017/02/01

二木範子(50) 長野・松本市で185年続く温泉旅館「富士乃湯」5代目女将  
●長野・松本市で185年続く温泉旅館「富士乃湯」5代目女将・二木範子さん



(C) tv asahi

富士乃湯(ふじのゆ)

住所/長野県松本市浅間温泉3-13-5

TEL/0263-46-1516

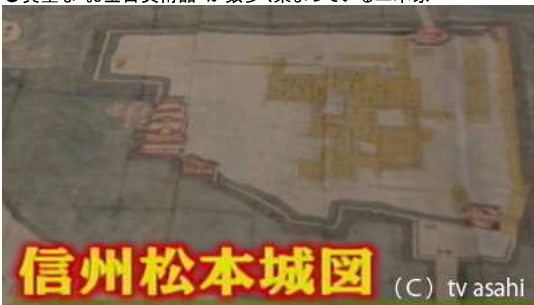
宿泊料金:1万6350円～(税込み 一泊・朝食夕食付き)

宇賀なつみアナウンサーが、伝統や文化を受け継ぎ、生き生きと輝く女性から、人生を素敵に過ごす秘訣などを伺う「継ぐ女神」。今回ご登場いただいたのは、長野・松本市で185年続く温泉旅館「富士乃湯(ふじのゆ)」の5代目女将・二木範子(ふたつぎ・のりこ)さん(50)です。

かつては松本城主からも愛されたという「隠れ家的温泉郷」である「浅間温泉」。その中でも富士之湯は、源泉掛け流しの半露天温泉付き客室(設置されていない客室もあります)などが好評で、連日満杯の盛況ぶりなんだとか。「全10室」というゆとりある間取りも落ち着ける雰囲気作りに一役買っています。

こちらの呼び物はそれだけではなく、「よそでは拝めない貴重な品々」や「ワケあり板長の心づくし料理」なども大きな自慢です。お客様に「温泉以外にも楽しめる要素が多いので、ますます来たくなる！」と言わしめるそれらについては、後ほどじっくり語ります。

●貴重な「お宝古美術品」が数多く集まっている二木家



(C) tv asahi

宇賀アナは、旅館の奥にあるという範子さんの自宅に案内していただきました。そのリビングルームにさりげなく飾られていたのは、範子さんの父が好きだという日本画家「西郷孤月(さいごう・こげつ)」の掛け軸。孤月というのは、横山大観と並んで「日本画の四天王」の1人に数えられる画家なのだそう。番組がリビングの掛け軸をプロ鑑定士に見ていただいたところ、なんと「100万円」という高値がつけました。

驚きはそれだけではありません。孤月ファンである範子さんの父は、なんと「27点」も作品を収集していたのです。これには鑑定士も大興奮！ 他の作家より作品数が少ないという孤月の絵にはどれも高値がつけられ、中でも「美術館にあってもおかしくない」という最晩年の一枚は「300万円」の鑑定額が付きました。

二木家のお宝の中には、国宝・松本城に関わる「歴史的に貴重な品」もありました。それは、畳3枚分もある巨大な「信州松本城図」。江戸時代中期に作られたという「松本城の最古の図面」で、文化庁も本物だと認めているそうです。明治になって壊された「太鼓門」はこの図を元に復元されたといい、「これが無かったら現在の松本城はなかったかも知れない」とも言われています。富士之湯は松本城主との関わりが深かった為、こうした貴重な品を数々譲り受けたのだそうです。

●崖っぶちからの脱却をもたらした“父のコレクション”



今でこそ連日大盛況の人気旅館である富士之湯ですが、実は数年前までは「経営難の崖っぷち旅館」だったそうです。また範子さんも「自分は絶対に跡を継がない」と両親に宣言し、東京で就職をしたといいます。そんな娘の姿を見て「この老舗旅館も自分の代で終わりだ」とあきらめた父は“趣味”を優先させることにし、好きだった古美術品のコレクションに熱中していききました。

そんな範子さんが実家へ戻ったのは、「父の体調が悪化した為」でした。「代々続いてきた旅館を自分の代で終わらせてしまったら必ず後悔する」と夫の伸次さんに説得され、渋谷戻って来たのだそうです。夫婦2人で旅館業を継ぐ決意をした際、範子さんは「約1億円」もの借金をして建物の大改装をしました。ところが売上げは落ちていく一方で、ついには板場を40年間預かって来た板長までも去っていききました。新しい板長を雇おうにも、支払う給与を捻出できません。

1億円の借金を抱えたうえに、旅館に不可欠な板長まで雇えない…。そんな絶体絶命の状況から富士之湯を救ってくれたのは、意外にも「父が買い集めた古美術品」でした。無造作にしまわれていた古美術品の数は、先祖から伝わる物も合わせると、実に200点以上！ 取り出して調べてみると、どれも著名な作家の作品や由緒ある品々であることが判明しました。そこで範子さんはなげなしのお金100万円を集めてギャラリーを作り、古美術品を「旅館の目玉」として展示することにしました。

「古美術品を売る」という道もありましたが、「それでは“その場しのぎ”にしかならず、またすぐにピンチがやって来る」と考えた範子さんは、そちらの選択肢は考えなかったといいます。その賭けは見事“吉”と出て、アイデアは大当たり！ 折からの“歴女ブーム”が追い風となって、客足はぐんと伸びました。更に月に1度、展示品を入れ替えることによってリピート客もついたので。取材時にも、古美術品を愛してやまないお客様たちが大勢いらしていました。

#### ●“板長不在”のピンチを乗り切った二木夫妻の奇策とは？



父の集めた古美術品によって“奇跡のV字回復”を果たした富士之湯でしたが、「板長不在問題」の方はどうなったのでしょうか？なんと「夫の伸次さんが5代目主人と兼任している」のです。元々は証券マンで料理とは無縁の人生を送ってきた伸次さんでしたが、「旅館の存続危機を前に一念発起し、6年前に板長になった」といいます。

そんな“ワケあり板長”である伸次さんですが、心を込めて作られた料理はどれも本格的！「信州サーモンの刺身」や「信州牛のステーキ」など、板長自ら選んだ地元食材がたっぷり使われた絶品メニューが並んでいます。「合鴨の生ハム仕立て」などの凝った料理も、寝る間を惜しんで勉強を重ねた成果です。今では伸次さんの料理目当てでいらっしゃるお客様もいるんだとか！

「味」はもちろん、「盛り付け」についても範子さんの厳しいチェックを入れたうえで出されているというメニューの数々。伸次さんが短期間でここまで腕を上げられた背景には、夫婦間といえども甘えや妥協を許さない「高度なプロ意識」があったのです。

#### ●どんな困難も、自分にしか出来ないことを見つければチャンスにかわる！



今回、範子さんへの取材を通して宇賀アナの心に残った「女神の一言」は、「どんな困難も、自分にしか出来ないことを見つければチャンスにかわる！」です。「先祖や父が残してくれた貴重な古美術品をどうにか家業に活かせないのか」と夫婦で必死に考え、「この宿にしか出来ないこと」を見つけ出すことに成功した範子さんは、まさに「自分にしか出来ないことを見つけて困難をチャンスにかえた」女性です。

いいね！ 1